

公立大学法人岡山県立大学 令和4年度 年度計画

第1 年度計画の期間及び教育研究上の基本組織

1 年度計画の期間

年度計画の期間は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までとする。

2 教育研究上の基本組織

年度計画期間において、各学部及び各研究科にそれぞれ次の学科及び専攻を置き、中期目標を達成する取組を行う。

学部	保健福祉学部	看護学科 栄養学科 現代福祉学科 子ども学科
	情報工学部	情報通信工学科 情報システム工学科 人間情報工学科
	デザイン学部	ビジュアルデザイン学科 工芸工業デザイン学科 建築学科
研究科	保健福祉学研究科	看護学専攻（博士前期課程） 栄養学専攻（博士前期課程） 保健福祉学専攻（博士前期課程） 保健福祉科学専攻（博士後期課程）
	情報系工学研究科	システム工学専攻（博士前期課程） システム工学専攻（博士後期課程）
	デザイン学研究科	デザイン工学専攻（修士課程） 造形デザイン学専攻（修士課程）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 学士教育

[1]

・保健福祉学部

令和4年度から開始する新カリキュラムの実施状況を分析し、改善点について検討するとともに、地域及び海外と連携した専門教育の充実を図る。

国家試験の合格率目標の実現に向けた指導を行う。

成果指標

- ・国家試験の合格率 (%)

試験名	R4目標
看護師	100
助産師	100
管理栄養士	96.0
社会福祉士	80.0

[2]

- ・情報工学部

成長分野を支える情報技術人材の育成のため、数理・データサイエンス・AI カリキュラムを充実させるとともに、「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*の授業科目の活用を推進する。また、全国の大学、岡山県立大学協力会*、システムエンジニアリング岡山等との連携を密にし、社会人基礎力の育成に努める。

[3]

- ・デザイン学部

学科改編と「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*による新カリキュラムの効果を点検し、教育内容の改善を行う。また、研究科対象の科目を学部生が受講できる仕組みづくりを進める。

質の高い学生確保のため、入試結果についての分析を行うとともに、オンラインや SNS を活用した効果的な入試広報を進める。

[4]

副専攻「吉備の杜」*の岡山創生学課程*と吉備の杜クリエイター課程*において相互で密に連携し、副専攻科目の実施と検証を行い、社会連携教育の充実を行う。

地域創生推進士の新規認定要件として制度化した準正課活動の拡充に努める。

成果指標

- ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合 (%)

項目	R4目標
全学部平均	54.0

[5]

内部質保証推進会議で設定したアセスメントプラン*を公表し、これに従った教学アセスメントを進めることで、学修者本位の教育の実現を目指す。

イ 大学院教育

[6]

- ・保健福祉学研究科

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*における新設演習科目の内容に関する評価を行い、充実を図る。また、海外の研究者によるオンラインを活用したグローバル専門教育を行う。

保健師国家試験の高い合格率を維持するための指導を継続する。

成果指標

- ・国家試験の合格率 (%)

試験名	R4目標
保健師	90.0

[7]

・情報系工学研究科

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*の授業科目の内容を充実させ、ヒューマンスキルの育成に努める。

岡山県立大学協力会*と協働してカリキュラムの充実を図る。

大学院修了者の進路決定率を向上する企業説明会の在り方を検討する。

[8]

・デザイン学研究科

学生の自主的な研究・制作活動を促進するため、学会発表やコンペティションへの積極的な参加をサポートする。

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*の授業科目の内容の充実を継続しつつ、リカレント教育について具体的に検討する。

成果指標

・（[6]～[8]）大学院修了者の進路決定率（%）

項目	R4目標
全研究科平均	100

（2）教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

[9]

アクティブ・ラーニング*、オンライン授業などに関するFD・SD*研修会の開催や、オンライン授業を含む相互授業参観に対する意見交換会により集約したアクティブ・ラーニング事例や授業改善案などの共有を通じ、教員の教育力向上に努める。

成果指標

・アクティブ・ラーニングの推進状況（%）

項目	R4目標
アクティブ・ラーニングの導入率	80

[10]

必要な施設・設備等の充実を図るため、予算編成時期に合わせ設備等の要望調査を行い、整備に努める。また、引き続き無線 LAN 設備の強化を進める。

[11]

副専攻「吉備の杜」*の岡山創生学課程*と吉備の杜クリエイター課程*において相互で密に連携し、コロナ禍の社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう教育プログラム（科目）としてのインターンシップの内容の充実を行う。

成果指標

・長期インターンシップ参加者数（人）

項目	R4目標
参加者数	55

2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

[12]

新学習指導要領に基づく教育を受けた令和7（2025）年度入学生の受入れに向け

て入学者選抜方法やアドミッション・ポリシーを検討し、令和4年秋に公表する。

[13]

ホームページの改修に伴い、SNSなどを活用して戦略的な入試広報を実施するため、ステークホルダーのニーズ調査を行う。また、令和3年度に発足した学生広報委員会とともに積極的な広報活動を推進する。

成果指標

・一般前期入試での志願倍率（倍）

項目	R4目標
全学部平均	3.2

[14]

各種入試広報事業を学生広報委員会とともに実施しつつ、コロナ禍における効果的な拡充実施の方法について検討を進める。

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[15]

図書館及び所蔵資料の利用状況等の調査分析を進め、サービスの向上と見直しを継続的に行うとともに、学生による選書事業等、学生目線による蔵書の充実を図る。

[16]

アクティブ・ラーニング*対応教室の利用状況、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニング導入事例などを調査し、改善点を抽出する。また、学内各施設・組織の協働により、学生の自主学習環境の充実を図る。

成果指標

・アクティブ・ラーニングの推進状況（再掲：9）

項目	R4目標
アクティブ・ラーニングの導入率	80

[17]

教職員のための学生対応マニュアルを活用し、アドバイザー制度*、オフィスアワー制度*による学生支援を充実させるとともに、面談報告書の分析から学生の課題を抽出する。また、スチューデント・アシスタント制度*の整備を実施する。

[18]

学生の積極的なボランティア活動や準正課活動、学生FD活動について、学生団体への情報提供や助言を行うとともに、より学生の主体的な活動を支援するための体制整備を検討する。

(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[19]

教職員のための学生対応マニュアルを踏まえ、学生を多面的に支援する体制を整える。

財政的に困窮している学生に対して奨学金や授業料減免制度の周知を行い、財源に応じた経済支援を行う。

[20]

障がい学生支援のあり方等について、研修会や教職員のための学生対応マニュアルを通して周知を図り、適切な対応に努める。また、予算の必要な配慮については、計画的に要求しながら実現に向けた検討を行う。

(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[21]

県内企業インターンシップの広報、ニュースレターによる広報活動を活発化させるとともに、各学科と就職相談室の連携を更に強化する。

県内企業に就職した卒業生による「県大吉備塾*」等の企画、岡山県立大学協力会*との協働による学生の就職・キャリア形成支援等の各種支援策を強化する。

成果指標

- ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合 (%) (再掲：4)

項目	R4目標
全学部平均	54.0

[22]

企業からのインターンシップの案内について、従来の掲示等の他、授業等の機会も使い積極的に情報提供を行う。また、エンジニアリング演習、地域インターンシップ等の授業科目を学生へ浸透させるよう努める。

岡山県立大学協力会*を中心とする県内企業にインターンシップ受入れの働きかけを行う。

成果指標

- ・長期インターンシップ参加者数 (人) (再掲：11)

項目	R4目標
参加者数	55

[23]

「県大吉備塾*」を開催し、県内外で活躍する本学卒業生を招き、仕事内容や業界情報、在学時の取組などの情報や知識を深め、就職やキャリア形成に対するモチベーションを向上させる取組を行う。

同窓会との連携強化により、イベント等の広報活動を行うことで、卒業生の積極的な参加を呼びかける体制づくりを進める。

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[24]

学内競争的資金制度の変更に対する評価を継続するとともに、研究活動を更に活性化・効率化させるため、学内競争的資金制度による論文成果数・外部資金への展開等の成果を可視化する仕組みを検討する。

[25]

外部競争的研究資金に関する公募情報を継続的に提供し、採択数の増加を図るとともに、科学研究費の申請書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・強化を行い、新規採択率の向上に努める。

成果指標

- ・公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。) (件)

項目	R4目標
件数	23

※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」

- ・科学研究費補助金採択率 (%)

項目	R4目標
採択率	27.0

※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定
(関連：第3-2-(1))

(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

[26]

アクティブ・ラボ*、各種セミナー等への参加状況及びアンケート結果、共同研究等*の獲得状況の分析から、教員の共同研究等の獲得を促進するための施策を引き続き検討し、実施する。

コロナ禍においても積極的に共同研究等の成立に向けた活動を展開する。

成果指標

- ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況
(合計) (件、千円)

項目	R4目標
件数	120
金額	90,000

※件数又は金額を到達基準とする

[27]

学内競争的資金制度による学部を越えた研究分野の連携の有効性の評価検証を行い、産業振興・地域ニーズを踏まえた新規性の高い研究推進にフィードバックさせる。

(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

[28]

業種説明会、岡山県立大学協力会*からの寄付講座等により地元企業の魅力を学生に周知する。また、岡山県立大学協力会と連携し、交流会・講習会等を継続して実施する。

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[再掲：4]

副専攻「吉備の杜」*の岡山創生学課程*と吉備の杜クリエイター課程*の相互で密に連携しながら、副専攻科目の実施と検証を行い社会連携教育の充実を行う。また、新型コロナウイルスの感染拡大等の社会情勢の変化に柔軟に対応し、円滑に授業を実施するとともに、改善を図る。

地域創生推進士の新規認定要件として制度化した準正課活動の拡充に努める。

成果指標

- ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合（％）（再掲：4）

項目	R4目標
全学部平均	54.0

[29]

副専攻「吉備の杜」*や大学コンソーシアム岡山*と連携し、県内自治体や企業等とともに地域連携教育や人材育成に取り組むなど、SDGs*の理念に資する新たな取組を推進する。また、コロナ禍において採用した開催枠組みや開催予定を利活用し、新たなニーズの掘り起こしに努める。

（2）地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[30]

地域住民等を対象とした地方創生に資する各種講演・講座等を引き続き実施するとともに、地方創生SDGs（持続可能なまちづくりや地域活性化）に資する地域連携活動を推進する。

6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

[31]

各学部・研究科におけるグローバル活動を教育・研究の双方から推進するための支援体制を整備し、グローバル活動の着実な取組を継続支援する。

[32]

令和3年度から導入した1年生対象のAdvanced class*の評価を行い、より効果的に運用する。また、e-learning*教材および本学オリジナル教材の評価と見直しを行う。

成果指標

- ・TOEIC 平均点の1年次から2年次への伸び幅（点）

項目	R4目標
伸び幅	4.0

※第3期中期計画の期間において経過年度の平均値で評定

- ・TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅（点）

項目	R4目標
伸び幅	1.0

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

（1）機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

[33]

理事長（学長）のリーダーシップの下、教職一体となった執行部による大学運営を引き続き推進していく。また、内部統制システムの維持強化のため、各業務におけるリスクの識別及び分析を行う。

[34]

組織体制等の見直しに伴う人件費等、収支に大きな影響を及ぼす案件については、経営的視点で検証し見直す。

[35]

事務局職員として必要な基礎や専門的知識の習得のため、県や公大協が実施する研修への参加を促すとともに、その他学内で受講できる有益な研修の機会を提供することで、職員の能力及び資質の向上を図る。また、学内で実施するSD*研修等への積極的な参加を促し、教職協働への意識の向上を図る。

[36]

法人職員の人材育成方針を踏まえ、岡山県立大学職員研修計画に基づく研修を実施する。また、事務局職員が積極的に大学運営に参画できるように、人件費抑制の観点も踏まえながら、各センターや事務局の組織体制の見直しを検討する。

[37]

学内ネットワークシステム更新を行い、各システムの運用実態を見極めたうえで、情報発信・共有についてのルールの見直しについて検討する。

(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

[38]

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト*を中心に、大学コンソーシアム岡山*、市町村及び企業等との連携、課題解決等に引き続き取り組むとともに、県施策推進連絡会議を活用する等、県と本学の連携、課題共有を推進する。

[39]

今後の大学づくりのための有効な方策について検討を進めるとともに、開学30周年に向けた具体的な取組を推進する。

[40]

社会のニーズを調査し、副専攻「吉備の杜」*でのリカレント教育を継続するとともに、それ以外の授業科目によるリカレント教育プログラムの提供を検討する。

2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

[再掲：26]

アクティブ・ラボ*、各種セミナー等への参加状況及びアンケート結果、共同研究等*の獲得状況の分析から、教員の共同研究等の獲得を促進するための施策を引き続き検討し、実施する。

コロナ禍においても積極的に共同研究等の成立に向けた活動を展開する。

成果指標

- ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)

項目	R4目標
金額	90,000

[41]

科学研究費の申請書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・強化を行い、獲得額の増加を図る。

成果指標

・科学研究費補助金獲得額（千円）

項目	R4目標
金額	83,000

※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定

(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

[42]

各種事業について、必要性、実績、費用対効果等の検証を行い、縮小・廃止を含めた事業見直しを行う。

3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[43]

アセスメントプラン*に基づき令和3年度のデータ分析・公表、改善策の立案を進めるとともに、認証評価に向けた自己評価書の作成を行う。

[44]

アセスメントプラン*に従った3ポリシー*の達成度評価を行い、IRデータを分析して改善に結び付けるとともに、分析結果の公表を進める。

オンライン授業の学修成果の向上に向けて、課題を抽出するアンケートの実施と分析を継続する。

[45]

教員の個人評価制度*について、改善に向けた具体的な検討を進め、早期の運用を目指す。

(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

[46]

令和4年度の役員会、教育研究審議会、経営審議会、各委員会等に係る議事録を審議過程の情報も含め公表する。

[47]

リニューアルした大学ウェブサイトを中心に、各種広報ツールを連動させ、様々なステークホルダーを意識した戦略的な広報活動を推進する。また、デジタルツールによる広報の更なる強化に取り組む。

4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

[48]

平成30年度に定めた中期修繕計画（令和元年度～令和9年度）に基づき、設備改修（高圧受変電設備、給排水・排水処理施設、外壁タイル等点検補修等）を実施

するとともに適宜、計画の見直しを行う。

(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

[49]

危機管理ガイドラインに沿った危機管理対応マニュアルを作成し、試行する。

成果指標

- ・危機管理対応マニュアルの作成と試行

[50]

危機管理ガイドラインに沿った災害対応マニュアルを作成し、学生や教職員への周知を図るとともに見直しを行う。

成果指標

- ・災害対応マニュアルの作成と学生、教職員への周知と見直し

第4 予算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第5 短期借入金の限度額

限度額 3億円

第6 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第7 重要な財産の譲渡等に関する計画

なし

第8 その他規則で定める事項

1 施設及び設備に関する計画

個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。

2 中期目標の期間を超える債務負担

○学内ネットワークシステム更新事業

- ・事業総額：382百万円
- ・事業期間：令和2年度～令和8年度（7年間）

(単位：百万円)

年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標 期間小計	次期以降 事業費	総事業費
債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382

(注) 金額の端数処理は、年度毎に四捨五入を行っているため、中期目標期間小計と一致しない。

3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の使途

教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

4 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

(別紙)

予算、収支計画及び資金計画

1 予算（令和4年度）

区 分	金額(百万円)
収入	
運営費交付金	2,097
補助金	179
自己収入	1,050
授業料及び入学金検定料収入	1,017
雑収入	33
受託研究等収入及び寄附金収入	102
目的積立金取崩収入	129
計	3,557
支出	
教育研究経費	811
人件費	2,232
一般管理費	412
受託研究等経費及び寄附金事業費等	102
計	3,557

[人件費の見積り]

総額2,141百万円を支出する。（退職手当は除く。）

- 1 上記金額は、役員報酬、教職員給料、諸手当及び法定福利費に相当する費用である。
- 2 岡山県からの派遣職員を除く教職員の退職手当については、公立大学法人岡山県立大学職員退職手当規程（ならびに公立大学法人岡山県立大学役員退職手当規程）に基づいて計算し、その額が運営費交付金で措置されているものとして見込んでいる。

2 収支計画（令和4年度）

区 分	金額(百万円)
費用の部	3, 6 2 2
經常費用	3, 6 2 2
業務費	3, 2 2 3
教育研究経費	8 2 6
受託研究等経費	7 5
役員人件費	3 1
教員人件費	1, 7 6 7
職員人件費	5 2 4
一般管理費	3 2 2
財務費用	—
雑損	—
減価償却費	7 7
収入の部	3, 4 9 3
經常収益	3, 4 9 3
運営費交付金	2, 0 5 5
授業料収益	9 4 5
入学金収益	1 0 7
検定料収益	5 1
受託研究等収益	1 0 3
補助金収益	1 2 3
財務収益	—
雑益	3 3
資産見返負債戻入	7 6
資産見返運営費交付金等戻入	4 7
資産見返寄附金戻入	1 2
資産見返補助金戻入	1
資産見返物品受贈額戻入	1 6
純利益	△ 1 2 9
目的積立金取崩額	1 2 9
総利益	—

注) 受託研究等経費は、受託事業費、共同研究費等を含む。

3 資金計画（令和4年度）

区 分	金額(百万円)
資金支出	4, 4 8 1
業務活動による支出	3, 3 5 8
投資活動による支出	1 9 8
財務活動による支出	1
翌年度への繰越金	9 2 4
資金収入	4, 4 8 1
業務活動による収入	3, 3 7 1
運営費交付金による収入	2, 0 9 7
授業料及び入学料検定料による収入	1, 0 1 7
受託研究等収入	1 0 3
補助金収入	1 2 1
その他の収入	3 3
投資活動による収入	5 8
財務活動による収入	—
前年度からの繰越金	1, 0 5 2

(用語説明)

用 語	掲載箇所	説 明
「吉備の杜」創造戦略プロジェクト	2 ・ 3 ・ 6 ～ 8 ・ 29	<p>文科省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」に採択された本学のプロジェクトで、他の大学等や自治体、地域の企業等と協働し、若者の地元定着と地域活性化を推進するもの。</p> <p>新たな副専攻として学部3～4年次生を対象とした「吉備の杜クリエイター課程」と、博士前期課程及び修士課程の大学院生を対象とした「吉備の杜プロデューサー課程」を新設する。</p> <p>「吉備の杜クリエイター課程」では、各学部の特色を生かした講義・演習科目と、企業の現場で社員等と協働した学びで、地域の未来を展望できる人材を育成し、修了認定を受けた学生には「地域創生クリエイター」の称号が与えられる。</p> <p>「吉備の杜プロデューサー課程」では、分野の枠を超えた研究科横断型科目と、企業の現場で主体的に課題解決に取り組む学びで、企業の現場で即戦力となるスキルを養成し、修了認定を受けた学生には「創造戦略プロデューサー」の称号が与えられる。</p>
岡山創生学課程	4 ・ 11	<p>COC+（地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)における本学の地域連携教育の一環として、どの学部・学科からも受講できる副専攻「岡山創生学」として平成28年度に新設。</p> <p>令和3年度から「吉備の杜」創造戦略プロジェクトによる副専攻の増設に伴い、その課程のひとつとして「岡山創生学課程」とした。</p> <p>「おかやま」という地域の特性をよく知り、実際に「おかやま」の各地域に出向いてのボランティアや、地域の方々と協働で地域課題の解決に取り組む等の学びを行う。</p> <p>修了認定を受けた学生には「地域創生推進士」の称号が与えられる。</p>
副専攻「吉備の杜」	4 ・ 11 ・ 29 ・ 40	<p>「吉備の杜」創造戦略プロジェクトによる新たな2つの課程（「吉備の杜クリエイター課程」及び「吉備の杜プロデューサー課程」）だけでなく、岡山創生学課程も含めた副専攻全体を、副専攻「吉備の杜」とし、3つの課程の連携を進めている。</p>
岡山県立大学協力会	2 ・ 7 ・ 21 ・ 22 ・ 28	<p>県立大学と県内企業等が協働して、県大の研究成果等の活用による県の産業振興、企業人材育成の推進及び県大の教育研究活動の充実を図ることを目的に平成30年3月に設立。各種講演会や研修、業種説明会、情報発信等を実施している。</p>
アセスメントプラン	5 ・ 43 ・ 44	<p>学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。</p>
リカレント教育	8 ・ 40	<p>近年の技術革新の著しい進展や産業構造の変化等に対応して、学校等で行う社会人再教育のこと。「学校教育」を、人々の生涯にわたって、分散させようとする理念に基づき、その本来の意味は、「職業上必要な知識・技術」を修得するために、フルタイムの就学と、フルタイムの就職を繰り返すことである。我が国では、一般的に、「リカレント教育」を諸外国より広くとらえ、働きながら学ぶ場合、心の豊かさや生きがいのために学ぶ場合、学校以外の場で学ぶ場合もこれに含めている。</p>

用語	掲載箇所	説明
アクティブ・ラーニング	9・16	従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修のこと。 (出典：文部科学省中央教育審議会（2012年8月28日）の答申)
FD・SD	9・35	FDは”Faculty Development”の略で、主に教員を対象とした、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的な取組。SDは”Staff Development”の略で、主に事務職員や技術職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援に必要な資質向上のための組織的な取組。
アドバイザー制度	17	学生が豊かで安心した大学生活が送れるように、教員が学生一人ひとりのアドバイザーとして学修面と生活面の支援を行う制度。アドバイザー面談期間を設け、全学生が決められた日時にアドバイザーと面談する。
オフィスアワー制度	17	教員が研究室にいる時間帯を設定して、学生の質問や相談に応じる制度のこと。
スチューデント・アシスタント	17	学生の中から採用し、授業等の補助を担わせる授業支援者のこと。
学生FD (ファカルティ・デベロップメント)活動	18	学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善のため、学生が主体となり、大学との連携によりそのマネジメントに関わる活動のこと。
県大吉備塾	21・23	学生のキャリア形成及び就職支援活動の一環として実施。県内外で活躍する本学卒業生を招き、在学生に対し仕事内容や業界情報、在学時の取組等を紹介してもらう。
学内競争的資金制度	24・27	本学の教員の研究を学内資金で支援する制度。毎年、公募を実施し、学長自らが支援する研究を選定している。 [重点領域研究助成費] 平成21年度に、国等の教育・研究助成費等（各種補助金やGP等）の獲得に繋がるような調査研究で、国際的に卓越した教育研究拠点の形成や本学独自の特色ある教育を目指した調査研究等を助成することを目的に創設した、学長査定による学内競争的研究費。 [独創的研究助成費] 平成19年度に、個人又は複数の研究者の独創性に富む研究や萌芽的研究等を助成することを目的に創設した、学長査定による学内競争的研究費。
アクティブ・ラボ	26	企業や企業が集まる場に本学教員とコーディネータが出向き、研究内容の紹介や技術相談を行い研究シーズと企業ニーズのマッチングを図る取組。出前研究室ともいう。

用語	掲載箇所	説明
共同研究等	26	<p>[共同研究] 本学が民間等外部の機関から研究費等を受け入れて、共通の課題について共同して行う研究、試験、試作、調査等をいう。</p> <p>[受託研究] 本学が民間等外部の機関から委託を受けて行う研究、試験、試作、調査等で、その研究等に係る費用を委託者が負担するものをいう。</p> <p>[教育研究奨励寄附金] 本学における教育・研究を奨励するため、その対象となる教育・研究の題目又は担当教員を指定して個人及び民間等外部の機関から寄附される寄附金で、教育・研究に要する経費に充てることを目的としてその受入れを承認したものをいう。</p>
SDGs	29・30	<p>2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。</p> <p>（出典：外務省 HP） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html</p>
大学コンソーシアム岡山	29・38	<p>県内の大学・短大・岡山経済同友会・県によって構成され、連帯と相互協力により、持てる知的資源の活用と、地域社会および産業界との緊密な連携により「時代に合った魅力のある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」に取り組む組織。</p> <p>参加大学間での単位互換制度や地域に根ざした生涯学習講座「吉備創生カレッジ」、大学が選考した企業による合同企業説明会等を実施している。</p>
e-learning	32	<p>パソコンやモバイル端末等の電子機器やITネットワークでインターネットを利用することにより、場所や時間、学習内容を問わず自分のペースでスキルアップを行うことができる学習システム。</p>
Advanced class	32	<p>令和3年度から英語教育（English Language Program1～6）で導入する、よりレベルの高いクラス。</p> <p>学生の意思を尊重しながら、習熟度に合わせたよりレベルの高い環境で学ぶことにより、教育効果と学習意欲の向上を図る。</p>
UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）	39	<p>企業におけるCI（Corporate Identity）戦略に基づいた考え方で、大学における教育や研究等に関する理念やビジョンを構築し特性や独自性を統一されたイメージやデザイン、またわかりやすいメッセージで発信し社会と共有（学内においても共有）することで存在価値を高めていく戦略のこと。</p>
3 ポリシー	44	<p>ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を指し、2017年より各大学が策定・公開することが義務付けられている。</p>

用 語	掲載箇所	説 明
ディプロマ・ポリシー	(44)	卒業認定・学位授与の方針。卒業（修了）時に身に着けさせるべき能力に関する大学の考え方をまとめたもの。学位授与に関する成績評価や単位認定、修了認定を適切に行うための方針。
カリキュラム・ポリシー	(44)	教育課程の編成・実施の方針。教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容および教育方法について基本的な考え方を示したもの。
アドミッション・ポリシー	12 ・ (44)	入学者受入れの方針。自校の特色や教育理念等に基づき、どのような学生像を求めるかをまとめたもの。

(評定目安) 成果指標について、自己評価する際の目安を示しています。

計画番号	成果指標	目標 (最終)	評定目安
1	(国家試験の合格率) (%) 看護師 助産師 管理栄養士 社会福祉士	100 100 96.0 80.0	4つの試験の目標到達状況について 到達が3つ以上：4、2つ以上：3、1つ以下：2 ※ただし、最終的な評定は、国家試験の目標到達 状況の評定目安だけでなく、年度計画の実施状 況も踏まえ総合的に判断する。
4	就職した学生のうち、県内の事 業所に就職した学生の割合 (%)	55.0	55%以上：4、55%未満～52%以上：4 or 3、52 %未満～50%以上：3、50%未満：2
6	(国家試験の合格率) (%) 保健師	90.0	受験対象者が少ないことも踏まえ、国家試験の 目標到達状況に加え、研究科の進路決定率及び 年度計画の実施状況を総合的に判断する。
6 ・ 7 ・ 8	大学院修了者の進路決定率 (%) 全研究科平均	100	目標到達状況を踏まえた上で、各年度計画の実 施状況を総合的に判断する。
9	アクティブ・ラーニングの推進状 況 (%) (導入率)	80 以上	80%以上：4、80%未満～70%以上：3、 70%未満：2
11	長期インターンシップ参加者数 (人)	55	55名以上：4、55名未満～40名以上：3、 40名未満：2
13	一般前期入試での志願倍率 (倍)	3.2 以上	全学部が目標を上回り、全体が100%以上：4、 一部学部が目標未満、全体が100%以上：4 or 3、 一部学部が目標未満、全体が90%以上：3、 全学部が目標未満、全体が90%未満：2
16	アクティブ・ラーニングの推進 状況 (%) (導入率) (再掲：9)	80 以上	80%以上：4、80%未満～70%以上：3、 70%未満：2
21	就職した学生のうち、県内の事 業所に就職した学生の割合 (%) (再掲：4)	55.0	55%以上：4、55%未満～52%以上：4 or 3、52 %未満～50%以上：3、50%未満：2
22	長期インターンシップ参加者数 (人) (再掲：11)	55	55名以上：4、55名未満～40名以上：3、 40名未満：2
25	公募型研究助成事業の採択数(科 学研究費補助金を除く) (件) (※「国・省庁の政府系助成金」及 び「民間からの助成金」)	25	25件以上：4、24～18件：3、17件以下：2
	科学研究費補助金採択率 (%) (※第3期中期計画の期間におい て、経過年度の平均値で評定)	27	27%以上：4、27%未満～24%以上：3、 24%未満：2)
※当該項目の最終評定は、上記2つの評定の平均による。ただし、3.5の場合：4or3(上回っ た状況次第)、2.5の場合：3or2(下回った状況次第)			
26	地域の企業・団体等との共同研究 費・受託研究費・教育研究奨励金 の獲得状況(合計)(件、千円) ※件数又は金額を到達基準とする	130 件 又は 100,000	合計(共同研究費・受託研究費・教育研究奨励寄 附金)⇒130件以上又は100,000(千円)以上：4、 130件未満～115件以上又は80,000(千円)以上： 3、115件未満又は80,000(千円)未満：2

計画番号	成果指標	目標(最終)	評定目安
32	TOEIC 平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) ※第3期中期計画の期間において、 経過年度の平均値で評定	5.0	5点以上：4、5点未満～0点以上：3、 0点未満：2
	TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点)	3.0	3点以上：4、3点未満～0点以上：3、 0点未満：2
再26	地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円) ※金額を到達基準とする	100,000	合計(共同研究費・受託研究費・教育研究奨励寄附金)⇒100,000(千円)以上：4、80,000(千円)以上：3、80,000(千円)未満：2
41	科学研究費補助金獲得額(千円) ※第3期中期計画の期間において、 経過年度の平均値で評定	85,000	85,000(千円)以上：4、 85,000(千円)未満～80,000(千円)以上：3、 80,000(千円)未満：2
49	危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況	—	—
50	災害対応マニュアルの作成並びに学生及び教職員への周知	—	—

※評定4：年度計画を十分に達成、3：年度計画を概ね達成、2：年度計画をやや未達成、1：年度計画を未達成(※岡山県地方独立行政法人評価委員会が定めた「公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準」参照)